

## 平成十九年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞！

片田 敏孝 教授      桑沢 敬行 研究員

平成十九年四月十七日に虎ノ門パストラルにて開催された平成十九年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の表彰式において、社会環境デザイン工学専攻の片田敏孝教授と桑沢敬行研究員が科学技術賞を受賞した。本表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者に対して授与されるもので、そのうち片田教授らが表彰された理解増進部門は、青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った者を対象としている。なお、桑沢氏は、本学の博士課程を終了後、本専攻が中心となり設立したNPO法人社会技術研究所に所属し、現在片田教授の研究室の研究員を兼任している。

受賞の対象となった業績は、「津波総合シナリオシミュレータを用いた津波防災の理解増進」で、近年わが国において危惧されている巨大地震を発端とする津波災害について、シミュレーション技術等を用いた防災活動により、的確な住民避難を促進し、人的被害を軽減することを目的とした研究の一部を取りまとめたものである。

本活動では、地域住民に対して避難情報が伝達される様子や住民避難の様子、そして津波が襲来する様子を総合的に表現するシミュレーション技術を開発している。この技術は、地域の津波犠牲者を推計するなど、種々の事態を考慮した防災対策を検討する危機管理ツールとして利用できる。また、津波災害時の一連の地域状況をアニメーションにより分かりやすく表現できることから、専門的な知識を持たない住民に対して、津波の現象や想定される被害、そして、的確な避難行動を説明する災害教育ツールとしても活用できる。片田教授らは、複数の津波常襲地域を対象にシミュレーションを開発するとともに、日本全国において実施された防災担当者や地域住民向けの多数の防災講演会等において、津波災害時における迅速な避難の重要性やシミュレーションを活用した災害教育や防災対策の普及啓発を図った。これらの活動の有効性や重要性が認識され、現在複数の自治体の防災活動に取り込まれ、継続的に実施されている。また、三重県尾鷲市において平成十六年九月の東海道沖地震時に沿岸部の地域で七割を超える高い避難率が見られるなどの実効性も確認されており、津波防災に取り組む地域の防災力の向上に寄与していることが高く評価されたかたちとなった。



津波総合シナリオシミュレータの詳細については、下記の災害社会工学研究室HPで閲覧可能です。

<http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/>